もし俺がスーパースーツを手に入れたなら・・!

キメラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もし俺がスーパースーツを手に入れたなら・・！

【Ｎコード】
Ｎ２３７５Ｐ

【作者名】
キメラ

【あらすじ】
突然つきつけられたスーツ！その能力をいかにこれからの人生につかっていくかをウハウハする中３の物語・・・

1俺様は中学3年のアホだ！（前書き）

中学３年受験生のアホがお送りする。現代に未来のようなスーツがあったらという１人のアホのお話ですｗ
小説書いてる奴はマジの中３のアホの初心者だから多めに見てやってくだし。。。ｗ

1俺様は中学3年のアホだ！

「テスト返すぞー」

これが俺の一番嫌いな言葉だ。

「はい。よくできたな！この調子なら志望校合格できるんじゃないか？」

とセンコーに言われてるのが俺の1つ前の優等生の中野君である。

「はい、次！前田！お前だよ、お前しっかり勉強してるのか？お前受験生だぞ？このままじゃ公立いけないぞ？お前の家は私立にいくお金がないんだからなしっかりがんばれ」

といわれて俺に返されたこの数学のテストは２０点・・・もちろん１００点満点中である

俺はいつもおもう・・・こんな紙切れになぜ俺の能力が決め付けられなければならないのだ？

そうおもって悔しさからか紙をくしゃくしゃにして堂々とセンコーの前でゴミ箱に捨ててやった。

「おい！なにやってるんだ！？これはお前のテストだぞ？」

「はいはいわかりましたよ拾えばいいんだろ」

俺はゴミ箱に向かう・・・ちっ！なんで俺がこんなことを・・・

クソッたれ！

そうおもい俺はゴミ箱をおもいっきり蹴り上げた

ガコン！パリーン！「キャァ！！」

ゴミ箱は蹴り上げたらガラスをぶちやぶり廊下に出てしまった。

「お・・・おい！前田！お前何をしてるんだ！ちょっとこっちへこい！」

無理やり手をつかまれ俺は外に出させられる。

「お前って奴は・・・

そこから俺は2時間説教をくらった・・・

ふぅ～俺はため息をついた・・・

俺の名前は前田健吾

中学3年のアホだ！部活はやっていなかったが外で柔道をやっていた！だから喧嘩でわ誰にも負けねぇ！

これが俺である

6時間目がおわりいよいよ俺の大好きな帰り道！

さて帰ろう・・・校門をでると

「けんちゃんバイバイ」

と横から声をかけられるこいつは俺の幼馴染みの真由子だ。

「あぁーじゃーなマユ」

なかなか可愛いがどうも俺は告白もできないし相手は俺のことを幼馴染みにしかおもっていないようだ・・・

俺は横断歩道をわたる。

長い道のりで俺の家はどこまで遠いんだと毎回おもう・・・

ん！そうだ近道しよう！

そう思い俺はいつもと違う暗い路地を通ることにした

よし久しぶりの路地だからテンション上がってきたぜ！

そうおもうのが最近の中学3年である！

ちっと気分があがって手を前に振り上げた・・・

ベシッ！「うっ」

あ・・・・やっちまった・・・・

「すんません、大丈夫ですか？」

とおっさんを見ると中年くらいの背である白髪も混ざってまさにおっさんだ。

手にはアタッシュケースこれはちっとカッコイイなにかそそられる気分だ・・・

俺はおっさんを起こした

なんとそのおっさんの顔が傷だらけではないか！息が荒い・・・

えぇえええ！俺のあの振り上げビンタがここまでのダメージとは・・・

「すいませんでした！」

俺は深々と頭を下げる。。

「おい・・・

ガラガラの声で俺に話しかけるおっさん・・・

「おい・・・お前・・これ守ってくれ・・・着てくれてもかまわんから・・・このことは人に・・・言うなよ・・・いいからこれもっていけ・・・」

そういっておっさんはアタッシュケースを俺に差し出した

「いやいや！こんなのいただけませんって」

「なら・・・守ってくれ・・・中身をまもってくれ・・・」

といっておっさんはアタッシュケースを開いた。

中から出て来たのは黒い全身タイツ？見たいな不気味な服だ・・・

他にケースの中にないかと覗き込んでもなかには何もない・・・

「これ・・だよ・・・私の２０年の研究成果なんだよ・・」

おっさんが涙を流し始めた

「ちょ・・・・・」

なんでこのおっさんは泣くかな・・・・

「お前・・これを守ってくれ・・・これは私の夢・・・なんだ・・・・」

夢・・・何か重く感じるものがある

「これをどうしろと？」

俺はそれが気になってしょうがない

「これは・・パワースーツだよ・・・人間のパワーを１００％まで・・・出し切りその力を・・・最大５０倍に跳ね上げさせるんだ・・」

ｏｈ！ナントイウＳＦモノガガタリネ・・・・・

俺の頭はいま宇宙にいるかのごとくこんがらがった・・・

「ええから・・・これもっていき」

といっておっさんは倒れた・・・

俺は怖くなってそのスーツだけをもらい走りさったのであった！

1俺様は中学3年のアホだ！（後書き）

よんでくれてありがとうです＾＾

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2375p/

もし俺がスーパースーツを手に入れたなら・・！

2010年12月1日10時53分発行